

2017年3月期第1四半期決算 決算説明会 Q&A (要旨)

【2017年3月期第1四半期の業績について】

Q：第1四半期の業績（売上高：前年同期比1.1%減収、営業利益：同1.1%増益）をどのように捉えているか。また、今後はどのような見通しか。

A：営業利益は想定並みであったが、売上高については若干想定を下回った。一方で、コンサルティングの受注は堅調であり、前第1四半期の大型ソフトウェア製品販売の反動を除けば、証券業、銀行業の受注残高も増加しているため、これらを着実に伸ばしていきたい。

Q：金融ITソリューションセグメントが減益（前年同期比12.2%減）となった要因は何か。

A：子会社の収益悪化が影響した。

Q：保険業の立ち上がりが遅れている要因は何か。また、今後はどのような見通しか。

A：保険業向けの新規大型案件獲得に時間を要している。景気先行きの不透明感が増す中で、今後の見通しも楽観視はできないが、金融ITソリューション全体では、好調な証券業やその他金融業などでキャッチアップしていきたい。

Q：連結子会社化した米国のCutter Associate, LLC（以下、カッター・アソシエイツ）の業績寄与はどの程度か。どのようなシナジーが見込まれるのか。

A：2017年3月期の利益寄与は軽微である。カッター・アソシエイツは資産運用領域のシステムリサーチで米国トップの企業であり、資産運用のパッケージシステムに高い知見を持っている。そのノウハウを獲得することで、NRIが米国市場に入り込んでいくチャンスが生まれると考えている。また、NRIの金融分野でのシステムソリューションのノウハウを提供し、共同でこの分野のグローバル市場に入り込んでいくステップとしたい。

Q：2016年4月に開業した大阪第二データセンターは、業績にマイナス影響を及ぼしているか。

A：現時点では、一部、先行して費用が発生しているが、さほど大きな負担にはなっていない。

Q：第1四半期に不採算案件は発生したか。

A：大きな不採算案件は発生していない。

Q：金融ITソリューションセグメントの受注高の増減要因を教えてください。

A：証券業、保険業、銀行業向けで十数億円程度の案件が増加したものの、前第1四半期の証券業向け大型ソフトウェア製品販売の反動減で、全体としては減少（前年同期比12.4%減）した。

・本資料は、2017年3月期第1四半期の業績および今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではなく、また何らかの保証・約束をするものではありません。本資料に掲載されております事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、また今後、予告無しに変更されることがあります。

・本資料のいかなる部分も一切の権利は野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

Q：事業環境についてはどのように見ているか。

A：新規分野や、事業の拡大に直接結びつくビジネス IT への企業の IT 投資は拡大していくという中長期的な見方に変わりはない。

以上

・本資料は、2017年3月期第1四半期の業績および今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではなく、また何らかの保証・約束をするものではありません。本資料に掲載されております事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、また今後、予告無しに変更されることがあります。

・本資料のいかなる部分も一切の権利は野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。